

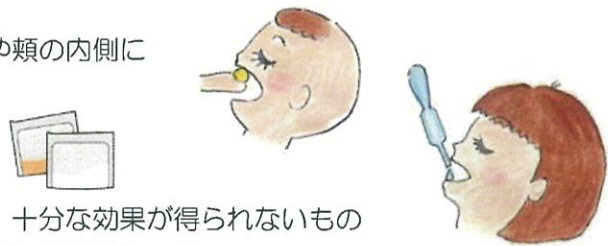
今日のテーマ

♥ **子どもの薬の飲ませ方** ♥

子どもが薬を飲めず、困った経験はありませんか？正しく薬を飲むことは、治療をする上で大切です。嫌がらずに薬を飲める方法を見つけてみましょう。

1 **粉薬の飲ませ方を工夫する**

- 乳児は、粉薬を少量の水分で練って上あごや頬の内側につけて飲み物を飲ませる
- 好きなものに混ぜて飲ませる
- 溶かしてスポイトで飲ませる



注意①混ぜるものによって苦みが増すものや、十分な効果が得られないものがあるので、調剤薬局で何が合うか確認してみましょう。

また、何かに混ぜる時には、量が多いと飲み残してしまう事があるので、なるべく少ない量で混ぜるようにしましょう。

注意②食事やミルクに混ぜると、食事やミルクを嫌いになることがあるのでやめましょう。

2 **内服のタイミングを変えてみる**

決められた薬の量を飲ませることが大切です。食後や授乳後はお腹がいっぱいになり、薬を飲まなかったり吐いてしまったりすることがあります。薬によって飲むタイミングが決まっている場合がありますが、食前に飲んで良いか主治医に相談してみましょう。



3 **薬の形を変えてもらう**

薬には、シロップ、粉薬、錠剤があります。薬によっては、形態を変更できるものがあるので、主治医又は調剤薬局に相談し、子どもが飲みやすいものを選びましょう。



飲めた時は、たくさん褒めてあげましょう

薬が飲めたことで自信をもち、薬を飲んでよくなりたいという意欲がもてるようになります。



大田区の感染症情報

学校等欠席者・感染症情報システムを活用し区内4地域（大森、調布、蒲田、糎谷・羽田）の感染症流行状況と感染症に関する情報をお伝えしています。



<7月1日~7月25日の

感染症状況>

地域	大森	調布	蒲田	糎谷 羽田
疾患名				
ヘルパンギーナ	42	38	69	10
RSウイルス感染症	21	23	29	12
新型コロナウイルス感染症	14	32	26	7
インフルエンザ	6	39	14	1

RSウイルス感染症は、6月下旬から増えてきています

*RSウイルス感染症

症状：鼻水、発熱といったかぜ症状で始まり、咳が長引きます
初感染の乳幼児では、重症の細気管支炎や肺炎を併発することがありますが、2歳以上で再感染した場合は、多くは軽いかぜ程度で回復します

*症状がなくなってもウイルスは1か月程排出するので、重症化しやすい乳幼児や高齢者への接触には、感染予防策をとりましょう